

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！

# 地域医療を守る共同行動 みやぎ連絡会 News

2020.10.02.Fri No.5

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局  
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18 (民医労内)  
Tel 022-782-0633 / FAX 022-782-0634

## 白石市地域医療を考える会例会及び有志議員懇談会 議会報告・地域住民独自懇談会報告、市長選挙の動向など情報共有



9/25 (月) 白石市地域医療を考える会の例会と議員有志懇談会が開かれ12名、内市議4名が参加しました。この間の議会報告や地域独自で開かれた「刈田病院を守るために」住民懇談会の報告、市長選挙の動向など情報共有が行われました。

住民懇談会のメモでは、刈田総合病院の整形の医師不在や救急医療の問題など切実な実態と共に、刈田総合病院への思いが語られた住民からの意見が紹介されました。

### 「刈田病院を守るために」住民懇談会参加した方からの声の一部

【今の病院について】 整形の常勤の医師が不在になったとき、署名活動もありましたが、市長は引き留めることはありませんでした。

現在、刈田病院は入院を必要とする骨折などの治療ができず、整形のリハビリもできていません。今の白石市民は整形の医療難民、と言われる状態です。病院の収入も半分近く減ってしまいました。

麻酔科の常勤の医師も退職され、緊急手術ができないため、交通事故の受け入れも困難です。盲腸など、緊急を要する手術もできません。麻酔科の医師も外科や整形外科の医師についても、市長は慰留することはありませんでした。白石からの繰入金金の激減により、赤字が増大し人件費削減のため医師の数も看護師も減らされています。その中で、今は循環器科が充実していて、心筋梗塞で心臓の筋肉が死んでしまう前に血管が細い段階で治療ができています。でも民営化になれば残念ですが、継続は難しいです。本当にこのような事が白石市民の民意なのか、はなはだ疑問です。

## 現山田裕一白石市長のYouTubeチャンネルが話題に！ 「刈田総合病院での周産期医療復活」を公約のように話す現市長



現市長のyamayu channel (<https://youtu.be/AjoBGxSosJM>) で「(刈田総合病院) 周産期医療の復活と診療科目の充実」を掲げていることについて、9月議会一般質問で取り上げられました。議員からは「YouTubeチャンネルに掲げた「周産期医療復活」は、画餅、絵に描いた餅、選挙のために実現できないことを掲げただけではないか、所見を伺う」と答弁を求められました。

## 富谷市長「市民も期待」 定例会見3病院連携・統合に言及

河北新報 2020.10.1 (木)

県立がんセンター（名取市）と東北労災病院（仙台市青葉区）、仙台赤十字病院（太白区）の連携・統合に向けた協議を巡り、病院の統合移転を想定し、富谷市への誘致を表明している若生裕俊市長は30日の定例記者会見で「表明後、連日市民から期待の声を聞く」と地元の期待感を述べた。

若生市長は「大規模な総合病院の誘致は長年の課題であり、企業の集積で人口が増える富谷・黒川地域全体の願い」と強調。立地に向けては「用地確保の見込みが立っており、（仙台市地下鉄南北線）泉中央駅からのアクセス整備などにも努める」との考えを示した。

若生市長は、富谷・黒川4市町村による村井嘉浩知事への要望活動や、誘致に全面協力するとの富谷市議会の決議に言及。「協議の進展を見守りつつ、誘致の実現に取り組む」と意欲を語った。

## がんセンター「市内存続に全力」 名取市議会が決議

河北新報 2020.9.30 (水)

県立がんセンター（宮城県名取市）と東北労災病院（仙台市青葉区）、仙台赤十字病院（太白区）の連携・統合に向けた協議を巡り、名取市議会は9月定例会最終日の29日、県立がんセンターの市内存続に向けて全力で取り組むとの決議を全会一致で可決した。

決議は、市民の間で県立がんセンターが市外に移転するのではないかと不安や動揺が広がっていると指摘。「名取川以南には地域医療支援病院がなく、（名取市は）周辺地域の医療機関に頼っているのが現状」と説明し、県立がんセンターの存続に向けて全力で取り組むと表明した。

長南良彦議長は「県立がんセンターは半世紀にわたり、地元の医療機関と連携し、医療活動を続けてきた。住民の安心を確保する点で欠かせない施設だ」と話した。

市議会は25日、がんセンター存続を求め、村井嘉浩知事に要望書を提出している。

## 3病院連携・統合 宮城県南4市町が知事に誘致要望

河北新報 2020.9.26 (土)

宮城県立がんセンター（名取市）と東北労災病院（仙台市青葉区）、仙台赤十字病院（太白区）の連携・統合に向けた協議を巡り、名取、岩沼、亶理、山元の4市町は25日、想定される統合後の新病院について、名取市をはじめとする4市町の地域内に立地するよう求める連名の要望書を村井嘉浩知事に提出した。

4市町の首長と議長計8人が県庁で村井知事と非公開で会談した。出席者によると、村井知事は「連携の枠組みや在り方、場所などはまだ決まっていない。要望書を受け取り、協議していきたい」と応じたという。

要望書提出後、仙台市内のホテルで、山田司郎名取市長ら6人が記者会見し、山田市長は県立がんセンターについて「県南地域の医療拠点として欠かせない」と強調。その上で「仮に仙台市より北に移転した場合、（がん治療拠点の）地域偏在がひどくなる」と訴えた。

新病院の建設予定地については「具体的に検討を進めている地域がある。名取市が責任を持って用意する」と説明。公共交通によるアクセス確保などに「全面的に協力する」と支援を表明した。

菊地啓夫岩沼市長は「県立がんセンターは地域医療のセーフティーネット。そばで治療を受けられるのがベストだ」と主張。山田周伸亶理町長は「（4市町に）がん治療を中心とした病院がなくなるのは大変厳しい」と懸念を示した。

仙台空港の運用時間を延長し、24時間化を目指す県が名取、岩沼両市と地域振興策の協議に入っている中、病院誘致との関連性を問われた山田市長は「議論すべきときではない」と述べるにとどめた。

斎藤俊夫山元町長は公務のため会見に出なかった。

3病院の連携、統合を巡っては、富谷市も誘致に名乗りを上げている。